

2026年1月29日

株式会社三菱UFJ銀行
AGC株式会社

三菱UFJ銀行とAGC、資源循環に関する覚書を締結 ～メガバンク初、後付けタイプの建材一体型太陽光ガラス資源循環を見据えた実証実験を開始～

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 半沢 淳一^{はんざわ じゅんいち}、以下、三菱UFJ銀行）とAGC株式会社（代表取締役社長 平井 良典^{ひらい よしのり}、以下、AGC）は、循環型経済の促進に向けた素材（板ガラス等）の資源循環の協業に関する覚書（以下、本覚書）を締結しました。本覚書に基づき、ステークホルダーとのパートナーシップを通じて、動静脈一体となったサプライチェーンの整備と、エコシステム構築に向けて必要とされるファイナンス手段の検討を進めます。板ガラス等原料を主に輸入に依存する素材の国内資源循環を進めることで、環境負荷と資源調達リスクを低減し、新たな事業機会の創出をめざします。今後両社は、循環型経済の促進に貢献するさまざまな取り組みを進めていきます。

1. 循環型経済の促進に向けた素材（板ガラス等）の資源循環の協業に関する覚書

サーキュラーエコノミー実現に向けた 素材の資源循環の協業に関する覚書



協業内容

- MUFGの顧客基盤とネットワークを活用した資源循環型事業のパートナー候補の紹介
- 資源循環型事業を推進するために必要となる情報・制度動向に関する共有
- 再生資源活用製品の価値訴求と市場認知向上のための情報発信
- 必要とされるエコシステム構築に向けたファイナンス手法に関する検討 など

2. 後付けタイプの建材一体型太陽光ガラスの実証実験

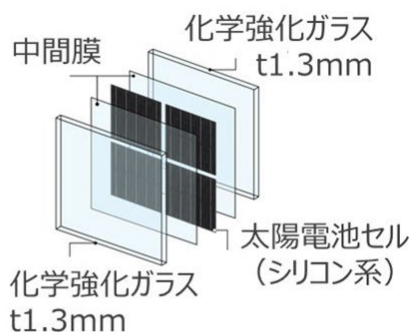
両社による本覚書に基づく協業の一環として、建材一体型太陽光発電ガラス サンジュール®の後付けタイプ（以下、後付けサンジュール）を三菱UFJ銀行の大阪ビル（大阪府大阪市）と鶴舞支店（愛知県名古屋市）に設置する実証実験を2026年1月より開始します。

気候変動への対応とエネルギーの脱炭素化が求められる中、建材一体型太陽光発電ガラス（BIPV：Building Integrated Photovoltaics）は、建物の開口部や壁面など、これまで活用されていなかった垂直面での発電を可能にするため、再生可能エネルギー導入を加速するための有力な選択肢として期待されています。三菱UFJ銀行とAGCは、地域と調和したオンサイト発電を推進し、都市部での再生可能エネルギーの導入拡充をめざします。加えて、廃棄物の削減や資源の節約による環境負荷軽減をめざし、後付けサンジュールのリユース性、リサイクル性を検証します。簡易に設置・撤去ができる特徴を活かし、品質や環境負荷などを評価し持続可能な利用方法を探ります。

【後付けサンジュールの特徴】

「後付けサンジュール」は、既存建物の窓部に、室内側から後付けで設置できる太陽光発電ガラスです。従来の屋根置き型太陽光パネルとは異なり、都市部の空き地や屋根スペースが限られた環境でも、建物の開口部を活用して再生可能エネルギーの導入加速が期待できます。

モジュール構成



- 可変機構を持ち、様々な窓サイズに対応可能
- 取り付けや取り外しが容易
- 構造計算不要で設置判断が容易



特徴 1	簡易設置・簡易撤去・短期施工
• 室内側から設置できるため足場が不要、工期が短い • 従来の窓交換によるBIPV導入に比べ工事費用の低減が可能 • 軽量モジュールのため、作業負荷が低く、設置や撤去が容易	
特徴 2	高い安全性・耐久性・デザイン性
• 耐震性、ガラスの強度や熱割れ防止など安全面での各種試験をクリア • 洗練されたデザインのため既存開口部の視認性を大きく損なわない • 脱炭素アクションを可視化できるため、PRにも寄与	

【設置場所と検証内容】

大阪ビルでは、後付けサンジュールのリユース性およびリサイクル性の検証を目的とし、モジュールのリユース品の設置、使用後のモジュール解体品のガラス再資源化可否について確認します。また、リユースおよびリサイクルに係るコスト、CO2排出量、環境影響を評価します。

鶴舞支店では、モジュールの発電量および耐久性の検証を目的とし、長期間の設置を通じて、室内窓際に設置した場合の発電量、耐久性を検証および発電量データをもとに、ライフサイクルアセスメントを含む環境影響を評価します。



3. 今後の展開

両社は本覚書に基づき、板ガラスに限らず、AGCが取り扱うさまざまな素材についても製造・使用後の回収から再資源化に至る資源循環ビジネスをステークホルダーとの協働を通じて推進します。これにより、環境負荷と資源調達リスクの低減、循環型ビジネスの創出に貢献していきます。また、三菱UFJ銀行は、本取り組みを通じて得られた「後付けサンジュール」の有効性・課題を行内に周知し、行員が当製品に係る正確な情報や評価に基づき、お客さまの導入に向けた金融支援業務を推進します。AGCは、本実証実験で得られた知見をもとに、2026年度の実用化に向けた取り組みを加速します。

【MUFGの環境への取り組み】

2021年5月にカーボンニュートラル宣言を行い、2030年までに自らの温室効果ガス排出量ネットゼロ、および2050年までに投融資ポートフォリオの温室効果ガス排出量ネットゼロ達成をめざしています。また、BIPV等の製品を通じた世の中のGHG排出量削減にも貢献していくことをめざしています。我が国の事業者全体の脱炭素の取り組みにおいて有効なソリューションの一つとなりうる建材一体型太陽光発電ガラスの有効性を自らの施設にて検証し、「世界が進むチカラになる。」という存在意義（パーパス）に基づき、自社の脱炭素推進・お客さまの脱炭素支援・当該技術の普及支援・行員の環境意識醸成等、さまざまな目的に役立てるべく実証実験に参画します。2024年度からの中期経営計画において、「社会課題解決への貢献」を重要な柱に掲げており、本取り組みは「カーボンニュートラル社会の実現」「循環型社会の促進」「産業育成、イノベーション支援」に訴求するものであり、自らの脱炭素の取り組みにお客さまの最先端技術を積極的に活用しています。

MUFGにおける環境負荷低減に向けた各種取り組みは、MUFG Climate Report 2025（気候変動レポート）、並びにHP（Sustainability at Work）をご参照ください。

MUFG Climate Report <https://www.mufig.jp/csr/report/progress>

Sustainability at Work <https://www.mufig.jp/csr/atwork/>

【AGCの環境への取り組み】

AGCグループは、2050年にカーボン・ネットゼロを実現することを宣言し、その中間目標として、2030年までにGHG排出量30%削減、GHG排出量売上高原単位50%削減（Scope1, 2合計。2019年比）をめざしています。ガラス製造プロセスの革新や再生エネルギーの導入、カレット（廃ガラス）リサイクル等を通じて、環境負荷低減と資源循環の強化に取り組んでいます。製品面では、建材一体型太陽光発電ガラス「サンジュール®」など創エネ技術を展開し、都市部での再生可能エネルギー導入等を促進しています。今後も、画期的な素材の開発・提供を通じて、持続可能な地球環境の実現に貢献していきます。AGCにおける建材一体型太陽光発電ガラスに関するこれまでのリリースは、下記Webサイトをご参照ください。 <https://www.agc.com/>

以 上